

地域における障害児の保健・医療・福祉の 包括化に関する研究

— 総 括 報 告 —

日暮 眞¹⁾，竹下 研三²⁾，落合 靖男³⁾，中村 安秀⁴⁾
塚原 洋子⁵⁾，児玉 和夫⁶⁾，関口 博久⁷⁾，多田 裕⁸⁾
青木 継稔⁹⁾，高田谷久美子¹⁾

〈研究目的〉

近年における本邦の母子保健水準の高度化と母子保健活動の充実ぶりは、目をみはるものがある。しかるに、健診の結果発見される障害児のケア・システムは、障害の多様性と活用に供される社会資源の地域格差のために、その「みとり」の方策は一様にはいかない。二次健診で問題となった児の地域社会で効率よい事後措置・ケアのできるモデル・システムの構築を目的として、本研究班をスタートした。その際、地域における障害児の保健・医療・福祉の包括的ケアの調整役としての保健所の位置付けとその役割に関し、模索することとした。

〈見出し語〉 心身障害児、保健・医療・福祉、包括化システム

-
- 1)東大・母子保健学 2)鳥取大・脳研・小児科 3)沖縄県小児発達センター
4)東京都母子保健サービスセンター 5)多摩保健所・稲城保健相談所
6)心身障害児総合医療療育センター 7)仙台市児童相談所
8)東邦大・新生児学 9)東邦大・大橋病院・小児科

〈研究方法〉

上記の目的を達成するために、以下の分担研究グループを構成した。

- (1)「学習障害のため就学指導委員会に上がった児童・生徒は乳幼児健診などでいくつの時に異常を指摘されたか」の検討
- (2)児童相談所が適正な役割分担をし、活動している事例の提示と、多くの児童相談所が何故適正に機能し得ないかの検討
- (3)周産期センターにおける医療の現状分析と、そこから退院したハイリスク児の地域でのケア・システムの模索
- (4)在日外国人より生まれた児の健診、ケア・システムの模索
- (5)地域における障害児と境界児への援助が比較的良好なネットワーク・システムを有する事例の提示
- (6)地域における保健・医療・福祉の包括化を展開していくのに必要な社会資源とその役割分担の現状分析とあり方の検討

〈研究の主たる結果と総括〉

二次健診で問題となった児の地域社会で効率よい事後措置、ケアのモデル・システムを構築していくにあたり、①保健所が果し得る役割の模索検討 ②医療担当病院での問題点 ③福祉に関する問題点 の3点に関し、以下の検討結果を得た。

①保健所

- a. 発達評価と指導を目的とするクリニックを設置する。市町村健診に続く二次健診的な機能をもたせるとともに、4-5歳を含めて随時の発達相談の希望に応える。発達問題に詳しい医師と心理職をあてる。0歳では、奇形、重度脳障害、盲・聾、生活環境リスク児が、1歳6ヵ月頃は、中等度以下の精神遅滞（自閉症を含む）や聾が、3歳では軽度精神遅滞、多動、学習障害リスクなどが対象となる。
- b. 観察を兼ねた発達指導を目的とする指導教室を設ける。医療・療育機関への通院（園）を拒否するケースや発達に境界的な内容をもつ児に期間を区切って（単位）指導を行う。

②医療

公立大病院における精密健診公費負担事務の簡便化と、広域・複数日受診を可能とさせる。

③福祉

障害児（盲・聾を含む）入園への応援。環境リスク児への入園費の公費負担化。

なお、その他の結果については各個研究報告を参照されたい。

本年度研究の総括として、以下の4点をあげる。

1. 明確な障害児のほか risk population として、①親が精神障害をもつ児 ②医療面でのケアより解放された周産期センターを退院した児 ③在日外国人の児（とくに母親が外国人の場合）等の marginal なケースのケア
2. システム・モデル構築の中で、行政に乗っている社会資源のカバーしきれぬ部分を相互補完し得る非行政機関の活用の可能性の検討
3. ケアの質を計量できる指標の模索
4. Promotion（障害児をもたぬ、ごく普通の市民への promotion）



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

近年における本邦の母子保健水準の高度化と母子保健活動の充実ぶりは、目をみはるものがある。しかるに、健診の結果発見される障害児のケア・システムは、障害の多様性と活用に供される社会資源の地域格差のために、その「みとり」の方策は一様にいかない。二次健診で問題となった児の地域社会で効率よい事後措置・ケアのできるモデル・システムの構築を目的として、本研究班をスタートした。その際、地域における障害児の保健・医療・福祉の包括的ケアの調整役としての保健所の位置付けとその役割に関し、模索することとした。